

# TOSHIBA

Leading Innovation >>>

# 環境報告書 2010

ENVIRONMENTAL REPORT



株式会社 **東芝** セミコンダクター社  
マイクロエレクトロニクスセンター

eco スタイル

東芝グループは、持続可能な地球の未来に貢献します。

ごあいさつ .....	2
環境方針 .....	3
環境経営 .....	4
環境目的・目標と実績 ...	5
環境負荷 .....	6
環境会計 .....	7
コミュニケーション	
.....	8 ~ 10
地球温暖化防止のために	
.....	11
資源の有効利用のために	
.....	12
環境リスクの低減 .....	13 ~ 14



東芝グループでは、「環境ビジョン2050」のもと、環境負荷を低減するとともに、新しい豊かな価値を創造していくことが、「地球内企業」としての使命だと考えております。

マイクロエレクトロニクスセンターとしても、環境に配慮した事業活動を推進し、今後も様々な取組みを展開していきます。

## 事業場概要 (2010年4月1日現在)

名称 : マイクロエレクトロニクスセンター  
 所在地 : 川崎市幸区小向東芝町1番地  
 発足 : 1958年  
 人員 : 約6,300人(構内常駐関係会社等含む)  
 拠点 : 半導体システム技術センター分室  
 (川崎市幸区堀川町580番1号)  
 大船分室  
 (横浜市栄区笠間2丁目5番1号)

## 編集方針

本環境報告書は、株式会社東芝 セミコンダクター社マイクロエレクトロニクスセンターの環境活動をステークホルダー(利害関係を有する方々)の皆様に分かりやすく紹介することを目指しています。記載内容は、環境省発行の「環境報告書ガイドライン2007」を参考に編集しています。

## 報告対象範囲

対象期間 : 2009年度(2009年4月1日から2010年3月31日まで)  
 対象組織 : 株式会社東芝 セミコンダクター社マイクロエレクトロニクスセンター  
 及び事業場の構内常駐会社  
 対象事業場 : マイクロエレクトロニクスセンター  
 半導体システム技術センター分室  
 大船分室

## マイクロエレクトロニクスセンター所長

大戸 泰起



東芝グループでは、「環境ビジョン2050」で、「地球と調和した人類の豊かな生活」を2050年のあるべき姿として描き、達成のための中期的な環境経営施策を環境ボランティアプランとしてまとめています。設定した数値目標を達成できるように主体的な活動を推進し、エコリーディングカンパニーとしての地位確立を目指しており、そのための具体的な取り組みとして、次の3つの「Green」を掲げています。

それは「Green of Process」「Green of Product」「Green by Technology」です。わたしたちマイクロエレクトロニクスセンターとしての取り組みは次のようになります。

### <Green of Process>

マイクロエレクトロニクスセンターの環境方針では、省エネルギー施策の実施による地球温暖化防止の推進を1番目に掲げ、昨年度はボイラーや冷凍機の更新、各部門の努力により、3,595t(08年度比9.7%)のCO2を削減することができました。

今年度も空調動力の最適化等に継続して取り組むなど、ハード、ソフト両面から施策を推進しています。また、今夏も昨年同様、クールビズ、冷房温度の28℃設定の実施など、具体的な地球温暖化防止活動を推進するとともに、廃棄物や有害化学物質の排出量削減への活動も引き続き推進していきます。

### <Green of Product>

マイクロエレクトロニクスセンターは東芝半導体の開発拠点として、環境に配慮した半導体製品の開発を通じて社会に貢献しています。これからも、環境製品No.1を追求した製品開発を実行していきます。

### <Green by Technology>

LED照明、スマートグリッド、太陽光発電などの今後の環境技術に目を向け、そこに使われる各種半導体デバイスを開発することにより、世界の環境負荷低減に貢献します。

企業の社会的責任を果たし、良き企業市民として地域社会から信頼され、持続可能な社会に貢献していくため、全員があらゆる業務プロセスで、またライフステージで環境を考え、環境に配慮し、実際の行動に繋げていきます。

環境報告書の発行は今回で7回目となります。この報告書をご一読いただき、マイクロエレクトロニクスセンターの環境活動についてご理解をいただくとともに、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。

## マイクロエレクトロニクスセンターの環境方針

**(株)東芝 セミコンダクター社**  
**マイクロエレクトロニクスセンター 環境方針****- 理念 -**

マイクロエレクトロニクスセンターは、東芝グループの環境基本方針である「"かけがえのない地球環境"を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、東芝グループ環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ります。低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境活動により、持続可能な社会の実現に貢献します。

**- 方針 -**

マイクロエレクトロニクスセンターは、東芝 セミコンダクター社グループの環境方針に基づき、環境への取組みを経営の最重要課題の一つと位置づけ、事業活動における環境負荷の低減活動を推進するとともに、日々の暮らしや様々な産業分野に欠かすことのできない半導体の設計・開発の拠点として、環境配慮型製品やプロセス技術等の研究開発を推進することで社会に貢献します。

当事業場は、研究開発都市川崎の東部に位置し、多摩川に近接した周辺を住宅地に囲まれた小向地区と、川崎駅に近接した半導体システム技術センター分室、及び横浜市栄区の大船分室を含め、都市に立地する事業場として周辺地域社会との協調連帯を図ります。

**1. 倫理観（コンプライアンス）と継続性（サステナビリティ）**

- (1) 環境に関する法令、同意した協定、業界指針及び自主基準など当事業場の環境側面に適用可能な法的及びその他の要求事項を遵守します。
- (2) 環境活動レベルの向上を図るため、監査の実施や活動のレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を行います。

**2. 実行（エクセキューション）**

事業活動における全ての環境側面について、生物多様性を含む環境への影響を評価し、環境負荷の低減、汚染の防止などに関する環境目的および目標を設定して、積極的な環境施策を展開します。

- (1) 動力、空調、設計・開発・評価用設備を中心とし、執務室・実験室等のエネルギー消費量削減施策の実施により地球温暖化防止を推進します。
- (2) 廃棄物総排出量削減などの3R活動、及び水資源の受け入れ量削減施策等により、資源の有効利用を推進します。
- (3) 使用する化学物質の管理並びに特定した化学物質の環境への排出量を抑制し、環境リスクの低減を図ります。
- (4) 有益な環境側面の積極展開を推進し、社会の環境負荷低減に取組みます。
- (5) 良き企業市民として、従業員の環境意識向上及び地域社会との協調連帯を図ります。

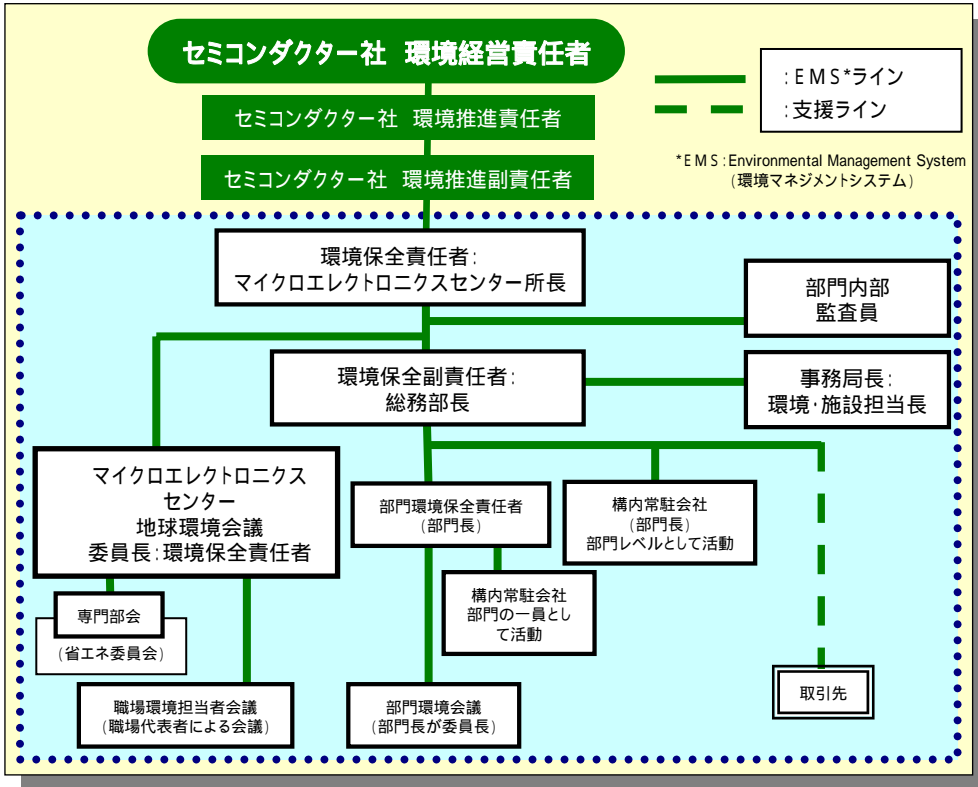
この環境方針は、社内外に開示するとともに本組織で働く全ての人々に周知し、方針に沿った事業活動を推進します。

2010年 8月 18日  
株式会社東芝 セミコンダクター社  
マイクロエレクトロニクスセンター

所長 大 戸 秀 起

マイクロエレクトロニクスセンターではISO14001:2004に適合する環境マネジメントシステムを確立し、継続的な改善・向上を推進しています。

環境マネジメントシステム推進体制



ISO14001認証取得

マイクロエレクトロニクスセンターは、1997年にISO14001の認証を取得しました。その後、2004年に半導体システム技術センター分室、大船分室を認証範囲に含めた拡大認証を取得。また2007年より半導体事業全体をスルーした活動を目指して、株式会社東芝 セミコンダクター社グループでISO14001統合認証を取得し、徐々に認証範囲を拡大しながら現在に至っています。2009年度は7月に統合認証審査STEP3\*を受審し、認証を継続しました。

ISO14001審査履歴		
1997年2月	本審査	認証登録
1998～2003年	サーベイランス審査5回、更新審査2回	継続、更新
2004年8月	更新及び拡大審査	拡大認証登録
2005年8月	1年次サーベイランス	継続
2006年8月	2年次サーベイランス	継続
2007年7月	統合認証審査STEP1*	統合認証取得
2008年6月	統合認証審査STEP2*	統合認証継続
2009年7月	統合認証審査STEP3*	統合認証継続

\* 統合認証審査のSTEPについて

セミコンダクター社グループ統合認証の範囲を段階的に拡大し、認証取得を推進しています。

STEP1: 営業拠点を含む本社組織と国内主要事業場の全7サイト    STEP2: 国内グループ会社(会社統合計画等のため一部対象外)

STEP3: 国内の未統合グループ会社と海外のグループ会社(製造拠点)

2009年度の実績

環境目的	環境目標	目標値	実績
環境経営体制の構築	ISO14001 セミコンダクター社 統合認証STEP3取得	ISO14001 セミコンダクター社 統合認証STEP3取得	統合認証STEP3を 受審し認証を継続
	施設管理 レベルの向上	EASTER(*1)評価 環境経営監査：A 現場監査：A	EASTER(*1)評価実績 環境経営監査：A 現場監査：A
	遵法体制の強化	体制構築と運用、電子化	電子化による許認可届 出マネジメント体制を構 築し、運用を開始
地球温暖化 防止の推進	エネルギー 起源CO2排出量の 削減	CO2排出削減量： 1,226[t-CO2](*)2以上/年	CO2排出削減量 2,365[t-CO2](*)2 /年 達成率 192.9%
資源の有効 利用の推進	廃棄物総発生 量の削減	3地区総発生量： 639.7t以下/年	3地区総発生量 514t/年 達成率 124.5%
	水資源受入量の削減 (工水・市水)	12月に設備提案を行う	半導体システム技術セン ターにて節水コマを本格 導入
環境リスク の低減	指定有害化学 物質排出量の 削減	使用量の削減： 315kg以上/年 (排出量の削減6.3kg以上 /年)	使用量の削減 315kg/年 達成率 100%
	指定有害化学物質の 適正管理	MSDS(*3)最新版の一元 管理 データベース化 9月より開始	MSDS(*3)一元管理 データベースを構築し、 稼動開始
環境コミュ ニケーションの推進	地域社会との 協調連帯	各種行事の実施 環境報告書の発行 東芝小向地区事業活動説明 会の実施	各種行事を計画通 り実施
環境意識の 向上	啓発施策の 実施・展開	各種行事の実施	環境月間、3R推進 月間、省エネルギー 月間において環境意 識向上につながる各 種啓発行事を実施

\*1: EASTER・・・東芝総合環境監査システム (Environmental Audit System in Toshiba on basis of Eco Responsibility)

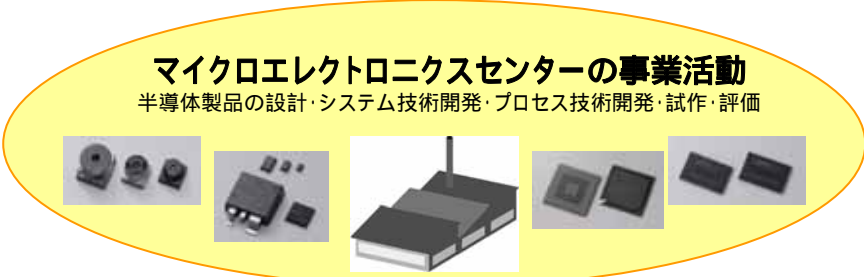
\*2: [t-CO2]・・・エネルギー起源(電力や都市ガス等)の使用量を、温室効果を有する二酸化炭素の重量に換算した単位

\*3: MSDS・・・化学物質安全性データシート (Material Safety Data Sheet)

環境負荷の状況



INPUT



OUTPUT



2009年度環境会計実績報告

環境保全コスト		2009年度実績		主な取組内容
		設備投資 (千円)	費用 (千円)	
事業内エリア	公害防止	929	46,505	環境設備(*1)の維持運用
	地球環境保全	8,970	123,510	省エネルギー対策
	資源循環	0	29,666	廃棄物処理
上流・下流	製品環境配慮	0	0	-
管理活動		0	173,568	人件費(環境管理・環境教育etc)排水分析
研究開発				集計対象外(*2)
社会活動		0	0	-
環境損傷対応		0	70,945	地下水分析・浄化
合計		9,899	444,194	

環境保全実質効果(*3)		対前年度比効果	
		削減量	削減効果額 (千円)
エネルギー	電力	600(万kwh)	280,868
	都市ガス	550.5(km³)	54,183
	ガソリン	0.2(kℓ)	-87.3
廃棄物(総発生量)		-90,878(t)	-298.3
用水(市水・工水)		39,433(m³)	14,748

環境保全みなし効果(*4)		対前年度比効果	
		削減量(kg)	削減効果額 (千円)
排水(事業場排水)		2,035	192,392.7
大気(ばいじん・窒素酸化物)		244.1	5995.4

廃棄物削減効果について…  
2009年度は事務所の再整備が行われ、それに伴う不要什器(鉄屑)の廃棄が増加したため、廃棄物総発生量、支払い金額ともに増加し、廃棄物削減の経済効果はマイナスとなりました。

\*1: 環境設備…排ガス除害設備、排水処理施設など環境保全のために稼働している設備  
 \*2: 環境に配慮した製品の研究開発に伴うコストについてはセミコンダクター社にて一括集計しているため、ここでは集計を行っていません。  
 \*3: 環境保全効果は基準年度と比較してどれだけ削減できたかを集計するものです。ここでの実績は全て基準年度を前年度(08年度)に設定し集計しています。  
 \*4: みなし効果は、集計した環境負荷物質排出量を重み付け係数を用いて貨幣価値に換算し、環境負荷低減効果を算出しています。

## クリーンキャンペーン

多摩川河川敷、川崎駅周辺、大船分室周辺において、毎年1回、従業員及び関係会社等従業員によるクリーンキャンペーンを行っています。

本活動は、CSR活動の一環として、就業後に実施するボランティア清掃活動で、大船分室周辺と川崎駅周辺は4回目、多摩川河川敷は5回目になります。



多摩川河川敷クリーンキャンペーン



川崎駅周辺クリーンキャンペーン



大船分室周辺クリーンキャンペーン

## 事業活動説明会

マイクロエレクトロニクスセンター小向地区、小向工場、東芝研究開発センターの3事業場合同で近隣地域住民を対象とした事業活動説明会を開催しています。2009年は10月6日に開催し、説明会には地域6町内会住民の方25名と川崎市環境局職員の方4名に出席していただきました。

まず、研究開発センターから東芝の経営理念、事業体制と経営成績等の事業概況と3事業場毎に環境に配慮した製品の研究開発状況及び地域の清掃活動状況等について説明を行い、その後、研究開発センターのリサイクル施設を見学していただき環境活動に対する取り組みをPRしました。

事業活動の説明



事業所内リサイクル施設見学  
(研究開発センターにて)



## 環境フォトコンテスト・環境標語コンテスト

毎年、環境月間である6月に従業員による環境フォトコンテストと環境標語コンテストを実施しています。

### 2009年度環境フォト優秀作品

『自然界、  
命の尊さを感じるで賞』



テーマ: 命の芽吹き  
撮影者: 藤井康也さん

『森林、老樹木も  
CO2改善に一役買いま賞』



テーマ: 次世代へのバトン  
撮影者: 山下新生さん

『不法投棄。  
モラル向上を進めま賞』



テーマ: 自然界は嘆いています  
撮影者: 鈴木成司さん

『資源の恵み、雨水も貴重な資源で賞』



テーマ: 雨水も貴重な資源!  
撮影者: 吉野達哉さん

『自然の力を利用、  
CO2排出削減を図りま賞』



テーマ: 自然エネルギー  
撮影者: 川邊龍一さん

### 2009年度環境標語優秀賞

『あなたの意識で地球が変わる はじめてみよう エコライフ』  
浦上 隆典さんの作品

### 2009年度環境標語優良賞

『身近な省エネ 続ける努力 明日につなげるエコライフ』  
押谷 和郎さんの作品

『地球にやさしいスマートライフ、財布にやさしい省エネ生活』  
井手上 あかねさんの作品

## 廃棄物分別トレーニング

10月の3R\*（スリーアール）推進月間中の活動として取り組んだ職場に向向いての『分別トレーニング』は、期間中合計4部門で実施し、64名の方が参加しました。

分別時に迷いやすい「紙くず」「軟質廃プラ」「混合再資源」を中心に、各職場に向向いてデモンストレーションを行い、参加者の方からは、わかりやすく分別について意識が高まったと好評をいただきました。



半導体システム技術センター分室にて分別トレーニング

\* 3R・・・Reduce Reuse Recycle(ごみの削減、再使用、再資源化)

## 職場省エネトップ巡視

省エネルギー月間である2月に、環境保全責任者（マイクロエレクトロニクスセンター所長）と環境保全副責任者（生産技術部長）による、エネルギー多消費部門の職場省エネトップ巡視を行いました。

所長より設備の稼働率、技術者の使い方をよく把握し、廃止までを視野に入れて総合的に稼働率を上げるようとの指示があり、現場の省エネルギーに対する意識が高まりました。



所長によるテスト室巡視

## グリーン調達

近年、法制化された欧州のRoHS指令\*などの環境法規制等に対応すべく、株式会社東芝 セミコンダクター社では、グリーン調達ガイドラインを定めています。

マイクロエレクトロニクスセンターでは、グリーン調達ガイドラインに基づいて調達活動を行っており、取引先企業と協同で環境負荷が小さい調達品の選定に努めています。

\* RoHS指令・・・電気・電子機器に含まれる危険物質を規定し、物質の使用を禁止する指令。

## 川崎市環境行動事業所認定

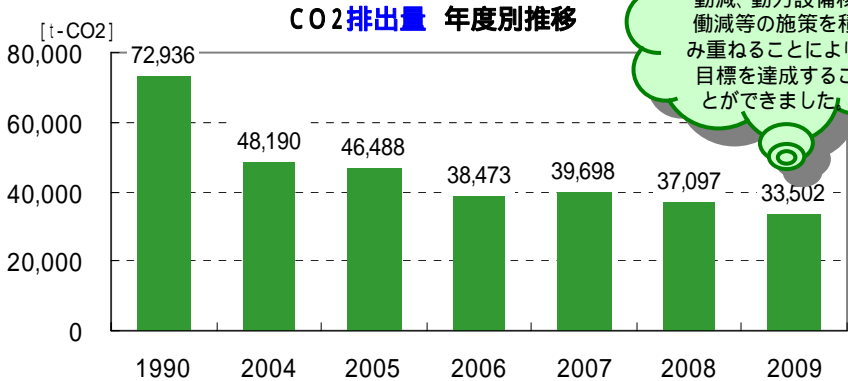
マイクロエレクトロニクスセンターは川崎市の「環境行動事業所\*」に認定されています。



\* 川崎市では、環境への配慮に優れている事業所を認定する制度「環境行動事業所認定制度」が運用されています。この制度は環境保全に関する活動を積極的に実施している事業所であって、一定の基準を満たしている事業所を環境行動事業所」として認定するものです。

地球温暖化を防止するために、燃料・電気等を消費する設備の維持管理、使用方法の改善など、省エネルギー活動を推進しています。

また、行政等の取り組みに呼応し、クールビズやネオンの消灯なども積極的に取り組んでいます。



テスター室空調稼働減、動力設備稼働減等の施策を積み重ねることにより、目標を達成することができました。

計画値：36,954 [t-CO2]  
**実績：33,502 [t-CO2] 08年度比10%削減**

## CO2排出削減の主な施策

### クリーンルームの温湿度設定見直し

半導体の開発・製造に必要な不可欠でありながら、大きな電力を消費するクリーンルームの温湿度設定を見直すことにより、温調用の冷水及び蒸気量を削減し、電力及び都市ガス量の削減を実現しました。

【省エネ効果】

CO2削減量：205 [t-CO2] / 年

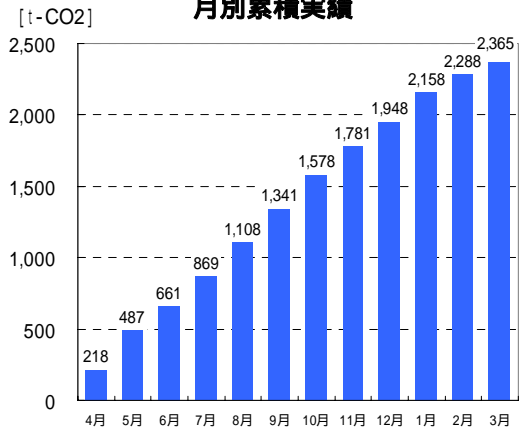
### 照明の間引消灯による電力削減

2009年度8月より照度基準範囲内での照明の間引消灯を実施し、照明電力の削減を図っています。この活動は2010年度も継続して取り組んでいます。

【省エネ効果】(2009年8月～2010年3月)

CO2削減量：13.4 [t-CO2]

## 2009年度 CO2排出削減量 月別累積実績

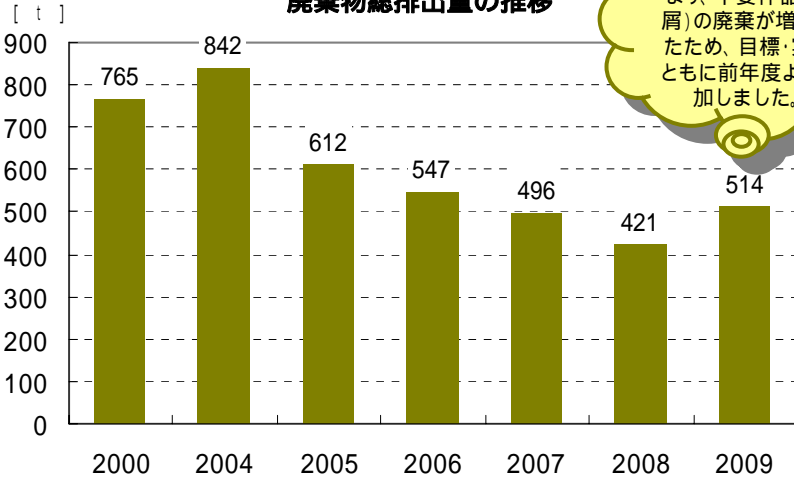


年間目標値：1,226 [t-CO2]  
**実績：2,365 [t-CO2]**  
**達成率：192.9%**

事業活動に伴って発生する廃棄物を適正に分別、保管、収集・運搬及び処理・処分することにより関係法令の遵守と環境保全の向上を図っています。

また、もったいない運動やコピー用紙の削減など、廃棄物発生を抑制する取り組みも積極的に行っています。

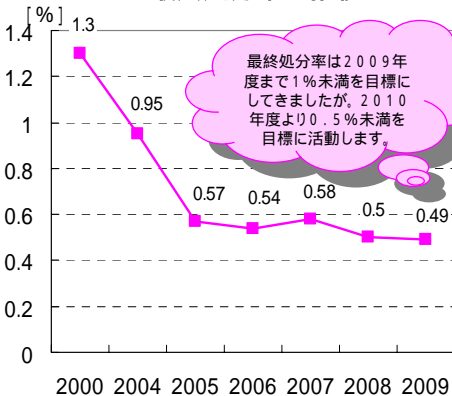
### 廃棄物総排出量の推移



事務所の再整備により、不要什器(鉄屑)の廃棄が増加したため、目標・実績ともに前年度より増加しました。

目標 : 639.7t以下/年 実績 : 514t 達成率124.5%

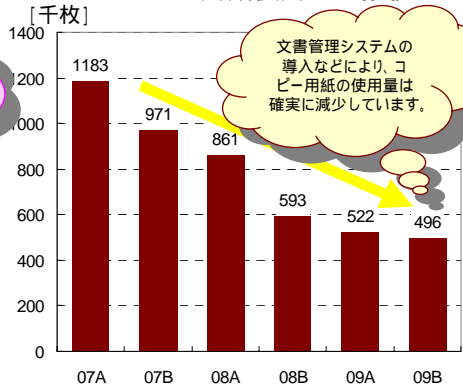
### 最終処分率の推移



最終処分率は2009年度まで1%未満を目標にしてきましたが、2010年度より0.5%未満を目標に活動します。

目標 : 1%未満 実績 : 0.49%

### コピー用紙使用量の推移



文書管理システムの導入などにより、コピー用紙の使用量は確実に減少しています。

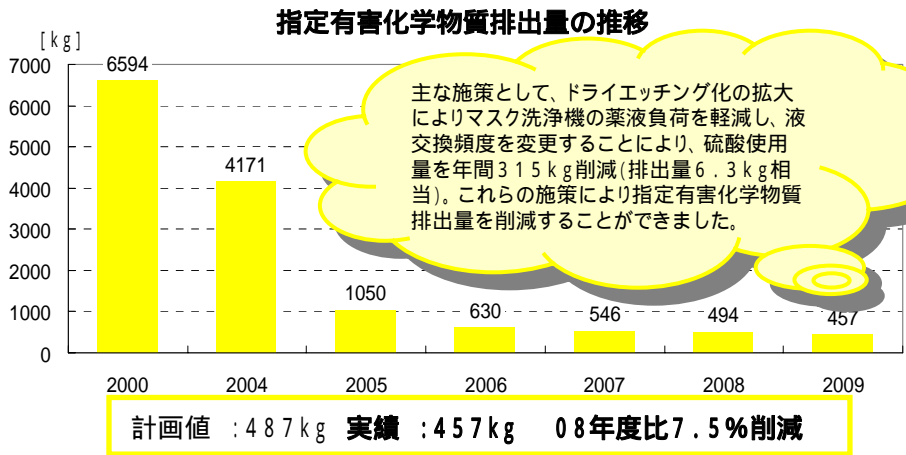
月平均使用量 09B\*実績 : 07A\*比58%減

\* Aは上期、Bは下期を表します。

事業活動において発生する環境へのリスクを低減するため、使用する化学物質の削減、排水・大気環境負荷物質の測定、騒音・振動の測定を実施し、遵法管理を徹底しています。

また、2009年度は環境事故、苦情等はありませんでした。

## 指定有害化学物質排出量の削減



## PRTR\*対象物質の管理

東芝グループではPRTR法施行(2000年3月30日)以前から、独自に指定化学物質の排出、移動量などの把握に努めてきました。当事業場では、東芝グループの指針に準拠し、年間100kg以上取扱う第一種指定化学物質を対象とし排出量などを開示しています。

[kg]

PRTR対象物質・群	使用量	大気	公共水域	土壌	自立埋設	業者廃棄	下水道	廃水処理	製品転化	副生成物	分解	処理施設	その他
ふっ化水素及びその水溶性塩	186.1	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	184.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
銅水溶性塩(錯塩を除く)	107.5	0.1	0.0	0.0	0.0	18.3	0.0	0.0	89.1	0.0	0.0	0.0	0.0

\* PRTR・・・化学物質排出移動量届出制度 (Pollutant Release and Transfer Register)

## 遵法管理(排水・大気・騒音・振動)

排水は法規制値よりも厳しい自主基準値を設定して適正に管理しており、継続的に水質の環境負荷低減を図っています。排水処理施設の水質(pH及びフッ素)は常時監視し、万が一自主基準値超過が発生した場合は、下水道への放流を遮断するシステム(緊急遮断弁)を有しています。大気へ排出する環境負荷物質についても、ボイラー、排ガス洗浄塔などの特定設備において徹底的な日常管理を行い、大気汚染防止に努めています。また、騒音・振動についても定期的に測定を行い、法規制より厳しい自主基準値を超えないように努めています。測定結果は定期的に公表を行っています。

## 排水水質測定結果 [mg/L] (pHを除く)

	測定対象物質	規制基準	自主基準	実測値*
有害物質	カドミウム及びその化合物	0.1	0.02	< 0.01
	鉛及びその化合物	3	0.02	< 0.01
	六価クロム化合物	0.5	0.06	< 0.05
	水銀及び7種水銀その他の水銀化合物	0.005	0.0006	< 0.0005
	砒素及びその化合物	0.1	0.01	< 0.005
	シアン化合物	1	0.03	< 0.02
	トリクロロエチレン	0.3	0.002	< 0.001
	テトラクロロエチレン	0.1	0.001	< 0.0005
	1,1,1-トリクロロエタン	3	0.002	< 0.001
	四塩化炭素	0.02	0.0002	< 0.0001
	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.4	0.003	< 0.001
	ジクロロメタン	0.2	0.002	< 0.001
	1,2-ジクロロエタン	0.04	0.002	< 0.001
	1,1-ジクロロエチレン	0.2	0.002	< 0.001
	1,1,2-トリクロロエタン	0.06	0.002	< 0.001
	1,3-ジクロロプロペン	0.02	0.002	< 0.001
	ベンゼン	0.1	0.002	< 0.001
	フッ素化合物	15	13	1.0
	ホウ素	230	1	< 0.1
	その他の項目又は物質	水素イオン濃度 (pH)	5.0~9.0	6.2~8.5
生物化学的酸素要求量 (BOD)		300	100	22
浮遊物質量 (SS)		300	40	13
揮発性抽出物質 (鉱油類)		5	3	< 2
揮発性抽出物質 (動植物油脂類)		30(10)*注	10	2.3
銅及びその化合物		3	0.8	0.01
亜鉛及びその化合物		3	0.5	0.06
鉄及びその化合物 (溶解性)		10	0.8	0.11
ニッケル含有量		1	0.02	< 0.01
マンガン及びその化合物 (溶解性)		1	0.2	0.06
クロム及びその化合物		2	0.1	< 0.05
燐含有量		20	3	0.3
窒素含有量		150	50	4
フェノール類		0.5	0.03	< 0.02

## 大気測定結果

	測定項目及び物質	規制基準	自主基準	実測値	単位	
ボイラー (小型貫流式) ↓	窒素酸化物 (日規制) 1	63	59	13.4	mg/1000KJ	
	窒素酸化物 (日規制) 2	63	59	12.5	mg/1000KJ	
	窒素酸化物 (日規制) 3	63	59	11.7	mg/1000KJ	
	窒素酸化物 (日規制) 4	63	59	11.7	mg/1000KJ	
	窒素酸化物排出総量 (年規制)	6080	4864	1027	Kg/年	
	粒子状物質排出総量 (年規制)	965	772	119	Kg/年	
	排ガス洗浄塔	フッ化水素	2.5	0.5	< 0.1	mg/Nm <sup>3</sup>
		塩化水素	8	4	0.09	mg/Nm <sup>3</sup>
		ベンゼン	10	1	< 0.1	ppm
		トルエン	100	1	< 0.1	ppm
キシレン		150	1	< 0.1	ppm	
二酸化窒素		100	1	< 0.1	ppm	
アンモニア		50	10	< 0.1	ppm	
塩素		1	0.2	< 0.03	ppm	

\* 実測値は年間の平均値を算出しています (定量下限値以下の場合、定量下限値を測定値として算出しています)。

\* ( )内の数字はこれを越えた場合に除害施設の設定又は必要な処置をとらなければならない基準値です。

\* 窒素酸化物と粒子状物質の排出総量は燃料使用量、排ガス量、運転時間、排ガス濃度等から算出したものです。

## 騒音・振動測定結果

	測定場所・時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音 (dB[A])	敷地境界:昼	65	60	50/53/52	年2回
	敷地境界:夜	55	53	47/50/51	年2回
振動 (dB)	敷地境界:昼	70	45	30/ < 30/36	年2回
	敷地境界:夜	60	40	< 30/ < 30/36	年2回

# 株式会社 **東芝** セミコンダクター社

## マイクロエレクトロニクスセンター

〒212-8583 神奈川県川崎市幸区小向東芝町1

## 半導体システム技術センター分室

〒202-8520 神奈川県川崎市幸区堀川町580番1号(川崎東芝ビル)

## 大船分室

〒247-8585 神奈川県横浜市栄区笠間2丁目5番1号(STEビル)

発行 総務部環境・施設担当 総務部総務担当

TEL 044-549-2511(ダイヤルイン)

本報告書の内容や当事業場の環境保全活動に関するご意見、ご質問などございましたら  
ご遠慮なく上記の発行担当までお問い合わせください。



インキに含まれる石油系溶剤の一部を大豆油に  
替えた環境に配慮したインキを使用しました。



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの環境に  
配慮した100%植物油インキを使用しました。



有機物質を含んだ廃液が少ない、  
水なし印刷方式で作成しました。



厳しい基準に従い、適切に管理された森林の  
木材を原料にしている紙を使用しました。